

設楽ダムの建設中止を求める会

第42号 2016年6月25日

<http://www.nodam.org/>

高木仁三郎市民科学基金から助成を受けました！

設楽ダムの建設中止を求める会は、2015年度に高木仁三郎市民科学基金から地質調査の助成(三十万円)を受けることができました。この助成を受けて行われた設楽ダムの地質調査関係の成果報告を、6月11日(土)に京都で行いました。(◆ 設楽ダム建設予定地周辺の地質調査 設楽ダムの建設中止を求める会 地質調査グループ市野和夫、伊奈紘連名による)

以下の「国の地質調査は不合格」はこの時の報告を基に見直し等を行ったものです。

2016年6月15日

国の地質調査は不合格！

＝設楽ダム本体建設の中止を求める＝

＝市民調査の結果＝

——活断層の疑いの濃い断層が発見され、田口西部地区の第三紀層と基盤の境界（不整合面）の見積もりに大幅な誤りがあることが判明した——

設楽ダムの建設中止を求める会 代表・市野和夫

1 はじめに（ダム開発における地質地盤調査の重要性）

巨大ダムは、長期にわたり大量の水を貯留するため、一旦事故が発生するとその影響は甚大である。したがって、安全性の確保のため、地質地盤調査は手抜きがあってはならない。ダム建設の立地選定をする上で問題となる主な地質地盤についての課題は、ダムサイトの岩盤強度などのほかに以下の3つがある。

（活断層／第四紀断層）

1984（昭和59）年、建設省は「ダム建設における第四紀断層の調査と対応に関する指針（案）」⁽¹⁾で第四紀断層への対応を示している。「一次調査で第四紀断層あるいはその疑いのあるものがダム近傍で確認された場合には、二次調査を行い、要注意な第四紀断層がダム敷に存在することが明らかになれば、位置変更などの適切な対応をする」というのが、その骨子である。

北米プレートとユーラシアプレートが東西から衝突し、その下に東から太平洋プレート、南からフィリピン海プレートが潜り込む日本列島の地殻には、プレート運動によるひずみが溜まっており、これが繰り返し断層活動を惹き起こす。大きな活断層系が確認されている地域はもちろん、日本列島のどこでも、注意が必要である。

（深層崩壊）

ダムの安全に関わる要因として、地盤の深部から崩壊する深層崩壊⁽²⁾が注目されている。深層崩壊は、基盤となる岩盤の上に新しい火山噴出物や、比較的新しい時代の堆積物が載る、あるいは貫入岩脈などの地質境界面や、断層破碎帯の存在が原因となり、多量の降水や貯水、地震動がきっかけとなって発生する。断層破碎帯は古いものでも深層崩壊の原因となりうる。深層崩壊が満水状態のダム湖の縁で起これば津波が発生し、ダム下流で起きた場合には、河川閉塞によってダムからの放流ができなくなる。

(漏水)

もう一つの重要な課題は、漏水問題⁽³⁾である。漏水によって目標とされた貯水ができなければ、ダム建設事業は目的を失うばかりか、漏水が引き金となって、地盤の浸食、地滑り、最悪の場合、堤体や護岸の損壊等を惹き起こし、惨事に至る恐れがある。

2 事業者による地質調査の経過と問題点

1978（昭和 53）年度の豊川上流域の地質概査から始められた設楽ダム計画に関する地盤調査は、当初のロックフィルダムから重力式コンクリートダムへの変更や、8000 万 m³ から 1 億 m³ への規模拡大などの紆余曲折を経ながら、1993（平成 5）年度設楽ダム地質検討業務委託報告書⁽⁴⁾でダムサイト選定の結果がまとめられ、当初の本命であった中流案を有力な候補地点として絞り込んだ。平成 5 年度報告書のまとめでは、平成 4 年度報告書に懸案事項として挙げられていた諸課題⁽⁵⁾が、大方片付いて、ダム建設の障害になるようなものはないという結論とされたが、実際には、懸案事項のほとんどが十分に検討されないまま、重力式コンクリートダム本体建設の準備のためのダムサイトの岩盤状況の調査に移ったのである。

設楽ダム計画地周辺には第四紀断層は存在しないとされ、航空写真からリニアメントを拾い若干の現地踏査を行う一次調査のみで、二次調査は実施されていない。ダム予定地近傍で見つかっている断層のうち、ダムサイトに向かう方向性を持った複数の断層についても、そのダムサイト付近までの連続性や、活動した年代、および相互関係など、詳細調査が実施されていない。

なお、1995 年に兵庫県南部地震があり、直下型活断層による被害の甚大なことが注目されたことも関係しているのか、1996（H8）年度に設楽ダム計画地周辺の第四紀断層について、ダム近傍のダムサイトに向かう方向性を持った線状模様について、地形・地質情報の収集・整理を行うことが望ましいとの方針が示された⁽⁶⁾。それを受けて、翌 1997（H9）年度に線状模様についての調査が行われ、報告書⁽⁷⁾がまとめられているが、掘り下げた調査ではなく、第四紀断層はないとの結論は不変である。

ダム計画地右岸に当たる松戸地区の二重山稜地形⁽⁸⁾は大規模な深層崩壊の可能性を示す地形であるが、詳細な調査はなされていない。

左右両岸とも地質断層や貫入岩脈が多数走っており、それらの破碎帯や弱線が深層崩壊や漏水を起こす可能性について、また、左岸上流部一帯は、基盤の上に第三紀の堆積層が不整合に覆っているが、この地層界に沿った深層崩壊や漏水の可能性についても十分に検討されていない。

3 市民による地質調査

3-1 市民調査の背景

設楽ダムが計画された地域には、これまで確認された活断層の報告はなく、文献上は付近に愛知県防災会議が“活断層の疑いの濃い”リニアメントを 1 本認定している⁽⁹⁾のみである。これを根拠に、事業者は設楽ダム敷の立地調査で、活断層（第四紀断層）がないものとの前提で地質調査を実施している様子が見える。しかしながら、この地域は、日本列島を西から東西に走ってきた大断層である中央構造線が北方向に曲がる地点にあたっており、また、設楽盆状構造と呼ばれる陥没地形の西北端でもある特異な場所であり、地形、地質が特に複雑な様相を示している。

設楽ダムの計画地点については、1960 年代初めに電源開発（株）がダム計画の調査に入ったが、撤退しており、建設省中部地建の平成 4 年度報告書⁽⁵⁾（80 ページ）にも、「電源開発の報告書には中流案右岸斜面は緩みが著しいと指摘されている」と書かれており、地盤が良くないことは事業者も知っている。電源開発が撤退した同じ場所で、40 年も前に作られた設楽ダム計画が、利水や治水上の必要がなく、環境に多大な影響を及ぼすことが明らかになったにもかかわらず、本体建設を迎えようとしている。

愛知県を相手どった住民訴訟⁽¹⁰⁾の過程で、設楽ダムの地質調査報告書類の開示資料が支援者から届けられ、国土問題研究会の設楽ダム調査団によって分析・検討された⁽¹¹⁾。訴訟では、被告の愛知県側が争点化を避けたため、地質面に関する論点の掘り下げは十分ではなかったが、準備書面を用意する過程で、事業者の地質調査報告書の記述に不自然さを感じとった。高裁の判決後、問題点を整理しつつ⁽¹²⁾、現地に足を運



(写真： 国の作った地質図では出るはずのない地点から出土した巻貝 伊奈紘 撮影)

“地質検討業務を委託された” 取りまとめ役コンサルタントの報告とに矛盾がないか否かを確かめることに注意を払った。

んで調査を始めた。事業者作成の地質図に基盤の領家変成岩類とされている地点から、出るはずのない貝類の化石が見つかる(写真左)^(写真1、13)など、見逃すことのできない問題点がはつきりしてきたため、2015年度の高木仁三郎市民科学基金の助成を受けて、市民による「設楽ダム建設予定地周辺の地質調査」に取り組んだ。

3-2 開示資料の分析

ダム事業者による地質地盤調査についての開示資料を分析し、どのような調査が行われたのか、必要な調査が実施されているか否か、不都合な情報が隠されていないか、また、“実際に地質調査を担当した” コンサルタントの報告と、

3-2 現地踏査による実証

開示資料の分析から問題点を整理しつつ、現地踏査によって実態を把握し、事業者の調査報告書の記述とつき合わせて検証すること、また、報告に記載されていない事実を見つけることに注意を払った。現地踏査は、①ダムサイトに向かう方向性を持つ断層の確認、②ダムサイト上流左岸側の第三紀層と基盤との境界線(不整合面)の確認、③ダム関連の道路工事現場の露頭確認、などに留意した。現地踏査には、事業者の平成5年度地質検討業務委託報告書の付図(2500分の1地質図)、国土地理院の25000分の1地形図を使用した。なお、地質学や活断層の専門家に、地層や断層の露頭について現地で鑑定してもらうか、あるいは、写真・資料によって判定や助言をしていただいた。

3-3 まとめ(市民調査で分かったこと)

ダムサイトの右岸には、松戸地区の二重山稜地形とそこに含まれる大きな地すべり地塊⁽¹⁴⁾がある。事業者はこの地すべり地塊に障りとして、当初の中流案ダムサイト位置から右岸側の着岸点を100mほど上流側に移動(座位を回転)させた現在の計画位置に変更している。いっぽう、二重山稜地形については詳細な調査をしないまま、大規模地すべりの可能性は低いとしている。地すべり地塊はダム直下流で河川閉塞を起こす恐れがあり、松戸地区の棚田を含む二重山稜地形からダムサイト全体を埋没させる大規模な深層崩壊の可能性も考えられる。また、ダムサイト右岸の着岸尾根には、数層の閃緑岩脈が谷側に傾斜する流れ盤をなして貫入しており、岩脈をすべり面とした大規模地すべりの恐れもある。

ダムサイトの左岸側では、高透水性のゾーン⁽¹⁵⁾が上下流方向に貫いていることが明らかになっており、また周りより異常に地下水位の高い部分もある。これらは、今回われわれが初めて確認した東西走向(N80E, 56N)の断層露頭(4頁写真)^(写真2、16)の西側の延長線上に当たることから、両者が関係しているものと思われる。この断層は、地表の風化層まで変位させており、第四紀断層(活断層)の疑いが濃い特徴を持っており、同時に、ダムサイト左岸斜面で谷側に傾斜する流れ盤を形成している。高透水性ゾーンや異常に高い地下水位の原因となっている可能性が高く、漏水を起こすとともに左岸斜面の深層崩壊を起こす恐れがあるものと判断される。

また、ダムサイト上流左岸の田口地区の西南端付近における第三紀層と基盤との境界(不整合面)の実際の標高をわれわれが調べた結果によると、国の見積もり⁽¹⁷⁾より少なくとも50~60mも低い位置にあつて満水位の水面下に没する。不整合面付近からダム湖の湛水が地下浸透し、液状化や地すべり・崩壊を誘発し、また漏水を起こす危険性は高いと考えられる。さらに、この付近には多数の断層が複雑に交差しており、地すべり地形の特徴が見られる。これらの断層が水みちとなり、不整合面付近の透水層と相乗して、漏水や地下水異常、地すべりを起こす恐れが強い。

ダムサイトに向かう方向性を持った複数の断層が存在し、ダムサイト真下に断層破碎帯⁽¹⁸⁾が確認されているにも関わらず、これらについての詳細な調査が実施されていない。今回のわれわれの調査でダムサイト

直近に向かう断層が発見されたことでも分かるように、見逃されてきた断層はこのほかにも複数あると考えられ、これらの断層が第四紀断層であるか否かの詳しい検討も必要である。



写真：われわれの現地調査で発見した断層の露頭。（第四紀に形成された）表層の風化層まで変位されている。

4 結論

事業者は、右岸の大規模な深層崩壊の恐れのある二重山稜地形について詳細調査をしていない。同様に、活断層についての詳しい調査をせず、確認済みの断層についての詳細調査もしていない。また、ダムサイト上流左岸に当たる田口西南部では、水漏れや地すべりと直結する不整合面の標高を実際より 50～60m も高く見積もって、ダム湖の満水位より上にあると誤った結論を出している。

今回、われわれが実施した市民調査によって、ダムサイト左岸斜面を切る断層が発見された。この断層は活断層の可能性が高く、水漏れや大規模地すべりを起こす恐れが否定できない。少なくとも、第四紀断層について二次調査は不可欠となった。

以上のとおり、事業者の設楽ダム周辺地質調査は極めてずさん、不十分であり、ダムの本体建設の前提条件は整っておらず、不合格である。

今年度の設楽ダム事業には、転流工関係の予算が掲げられたが、転流工を含めて本体建設に向けた準備を中止することを求める。



(注)

- (1) 「ダム建設における第四紀断層の調査と対応に関する指針（案）」、建設省河川局開発課，昭和 59 年 3 月。p.138-150; <http://doi.org/10.11315/jsde1991.10.138>
- (2) 深層崩壊についての研究報告やシンポジウム記録などは 2008 年以降・・・「深層崩壊の実態、予測、対応」，2012（平成 24）年 2 月，千木良雅弘，京都大学防災研究所； 「深層崩壊溪流レベル評価マップ」，「深層崩壊跡地密度マップ」，2012（平成 24）年 9 月，国土交通省； 特別シンポジウム「深層崩壊を考える」，2011（平成 23）年 1 月，砂防学会； 「深層崩壊推定頻度マップ」，2010（平成 22）年

8 月, 国土交通省; 「土木研究所資料 深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル (案)」, 2008 (平成 20) 年 11 月, (独法) 土木研究所 土砂管理研究グループ 火山・土石流チーム.

(3) 漏水ダムについては近年、以下のような例がある。

大蘇ダム: 総貯留容量 430 万 m³ のかんがい用ダム (事業者は九州農政局) で、当初予算 130 億円で完成したが水が溜まらず、合計約 600 億円を注ぎこみ、なおも 100 億円以上が漏水対策として必要とされている。

東郷ダム: 総貯留容量 51 万 m³ のかんがい用ダム (事業者は北海道開発局) で、本体は 1982 年にできたが、漏水で使えずに 20 年放置され、会計検査院から指摘を受けて、96%貯水量を減らす計画。

八汐ダム: 総貯留容量 1190 万 m³ の揚水発電用ダム (事業者は東京電力) 漏水によって計画水量が賄えず、不足分を違法取水した。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisya07/05/050420_2/04.pdf

丸山ダム: 1955 年完成の老朽ダムで、ダム本体から毎分 1600 リットルの大量の漏水が発生。新ダム計画が進行中であるが、老朽ダムの漏水にも注意が必要である。

http://www.cbr.mlit.go.jp/kawatomizu/dam_followup/pdf/h2202_maruyama-rousui.pdf

(4) 「平成 5 年度設楽ダム地質検討業務委託報告書」, 建設省中部地方建設局設楽ダム調査事務所, 平成 6 年 3 月。

(5) 設楽ダムの懸案事項・・・「平成 4 年度設楽ダム地質検討業務委託報告書」, 78～81 ページに掲げられた懸案事項。①ダムサイトに向かう断層の詳細、②ダムサイトの岩盤状況、③右岸の二重山稜地形の成因、④ダムサイト上流左岸の第三紀層の詳細、⑤地すべり・崩壊地の詳細調査、などが挙げられている。

(6) 「平成 8 年度設楽ダム地質解析業務委託報告書【地質編】」, 建設省中部地方建設局設楽ダム調査事務所 平成 9 年 3 月。

(7) 「平成 9 年度設楽ダム線状模様調査検討業務報告書」, 建設省中部地方建設局設楽ダム調査事務所, 平成 10 年 3 月。

(8) 二重山稜地形・・・尾根地形が二つに割れたと思われる地形で、大規模な地すべり地形の疑いがある。

(9) 「愛知県と周辺地域における活断層と歴史地震の分布図」, 愛知県防災会議地震部会, 昭和 54 年 8 月。

(10) 設楽ダム住民訴訟・・・愛知県に対して公金支出差し止めを求めた住民訴訟、2007 年～2014 年、設楽ダムの建設中止を求める会のウェブサイト (<http://www.nodam.org/>) 参照。

(11) 調査報告書「設楽ダム予定地周辺の地質について」, 国土問題研究会設楽ダム調査団, 2011 年 11 月。

(12) 「設楽ダム予定地周辺の断層・破碎帯をめぐって (I) 事業者 (国土交通省中部地方整備局) の地質調査報告書の批判的検討」, 市野和夫, 愛知大学総合郷土研究所紀要, 第 60 輯, 1～10, 2015 年 3 月。

(13) 「設楽ダム予定地周辺の地質ガイド I」, 設楽ダムの建設中止を求める会, 2014。

(14) ダムサイト右岸直下流の斜面高位にある地すべり地塊、直径 100m におよぶ深部まで風化の進んだ地塊で、事業者の報告では「緩みゾーン」とも表現されることもある。「平成 21 年度設楽ダム地質総合解析業務報告書」, 5～10～11。

(15) ダムサイト左岸斜面の高透水性ゾーン・・・「平成 21 年度設楽ダム地質総合解析業務報告書」, 4～191～192。

(16) 田口シウキ地区の付け替え道路工法面に出現した断層露頭 (写真参照)。

(17) 「平成 5 年度設楽ダム地質検討業務委託報告書」の付図 2500 分の 1 地質図から読み取り。

(18) M40、および M41 ボーリングの結果、断層破碎帯がダム敷直下に存在することが示されている。「平成 14 年度設楽ダムサイト左岸ボーリング調査報告書」, 基礎地盤コンサルタンツ。

(謝辞) この報告 (提言) の基となる「設楽ダム建設予定地周辺の地質調査」(設楽ダムの建設中止を求める会 地質調査グループ 代表市野和夫) は、高木仁三郎市民科学基金の助成 (2015 年度) を受けた。また、国土問題研究会会員をはじめ、地質や断層の専門家に鑑定・助言などの協力をいただいた。専門家諸氏の協力無しにはこの市民調査の結果をまとめることは不可能であった。開示資料を提供していただいた支援者の方にも感謝する。なお、言うまでもなく、報告内容についての責任は、すべて著者にある。



熊本地震視察から見た設楽ダムへの警鐘

設楽ダムの建設中止を求める会 副代表 伊奈 紘

6月10日から12日まで、家内と二人して、九州の熊本地震の視察に出かけました。一番見たかった場所は、壊れてしまった大切畑ダムと建設中の立野ダムの現状でした。まずはそこで私が見たものを紹介します。

1 まずは大切畑ダム から

西原村にある大切畑ダムは農業用の小さなフィルダムです。これが地震で壊れ、水が漏れ出したので大騒ぎし、急きょ排水口から水を抜いたと報道されました。このダム直下に大切畑集落があったからです。水を抜いた後ダムの底には亀裂が入っていることがわかりました。堰堤も壊れていました。集落も地震で壊滅状態になり、集団移転することになりました。



2 立野ダムです

立野ダムは阿蘇の外輪山の出口付近に計画された治水専門の穴あきダムです。その必要性が問われ、また地質の悪さから建設反対運動が盛んなダムです。本体工事は始まっていますが、まだ堰堤の本体は姿を現していません。



(写真1)



(写真2)

今回の地震でその工事用の車が崩落した土砂で埋まったりしました。それ以上に周辺部の山の崩落がすさまじく阿蘇大橋がなくなったり、大分に向かう国道57号線や豊肥本線、南阿蘇鉄道が大きな被害を受け、いまだ復興のめども立っていない状態です。連日のようにTVで報道されました。

(写真1)の道路は立野集落から長陽大橋に向かう道路です。ダムができると湖岸道路になるのかな？でもご覧のとおりです。(写真2)はその手前の耕地にできた大きな亀裂です。この辺りにはこうした亀裂が何本も走っています。地震の揺れで地割れしたものでしょう。いずれもダム建設場所から数百mしか離れていません。

次の写真は国交省が6月3日出した報告書の写真です。先の写真と同じ場所です。下の道路や南阿蘇鉄道の線路が埋まってしまっているのがわかります。

立野ダム周辺における活断層の調査について

九州地方整備局
Kyushu Regional Development Bureau

○地震発生後の現地調査で、地表の亀裂を確認した結果、ダム本体建設予定地から約500m離れた位置で、既知の北向山断層に沿って、地表亀裂がダム本体には向かわず、線状に分布していることを確認しました。



この報告書によると、「建設予定地付近の河川内では、表層の剥がれ落ち以外に大規模な崩落は発生していない」「地表亀裂は線状に分布し、ダム本体には向かっていない」と書かれていますが、いずれも都合のいい解釈による過小評価です。これで「予定通りダム建設を進める」と言いたいのでしょうか、ぞっとします。

この辺りは布田川断層帯の延長線上にあり、今回はたまたまこの辺りを震源とした地震は起きなかったことで、この程度の被害で済みました。それでも周辺部では山崩れが無数に発生し、死者も出ました。もしダムが完成していたら、水抜け用の5m×5mの穴は簡単に土砂でつまり、ダム湖全体が土砂や流木で埋まってしまって、役立たずの超大型砂防ダムと化したはずで、その後、土砂が穴抜けすれば、下流に大量の土石流を流す危険性が出てきます。更に布田川断層の亀裂がここまで伸びて、極近くを震源にした地震が発生すればダム本体やダム周辺部が崩壊し……。

恐ろしいことですよ。

3 設楽ダムへの警鐘

① 地盤の悪さを過小評価してはいけない

大切畑ダムも立野ダムも断層が近くを通っていて、加えて周りの岩盤がぜい弱でした。設楽ダム建設予定地も近くに断層が複雑に存在し、地盤が悪く、もともとダム建設に向かない場所とお墨付きの場所です。電源開発がボーリングをした結果、建設を早々にあきらめた経緯もあります。その後、国交省が建設したいと言った時も、当初はできるだけ岩盤に負担がかからないロックフィルダムにする予定でした。

しかしいつの間にか、危険性が過小評価され、都合の悪いデータは改ざんされ、安全神話さえ生み出されてしまっています。この風潮が恐ろしいですね。

大きな被害が出てから想定外だったではすまされないのです。

② 建設目的を再確認しよう

立野ダムは下流の洪水防止を目的にした穴あきダムです。そもそも穴あきダムが洪水防止の最良の方法なのでしょうか？洪水防止は、破堤しそうな下流の堤防強化から始めるべきでしょう。

設楽ダムも不必要だと言われるたびにダムの目的を次々に変え、いつの間にか「流水の正常な機能維持」が最大の目的になっていました。ここまでくると目的などどうでもよくて、ダムの建設そのものが目的地になってしまったように思えます。

誰のためにダムを造ろうとしているのかと考えてしまいますね。

③ 止められないというあきらめが怖い

建設しようとしたのは国、お金を出すのも国、それをどうしたら止められるのか？ 実はこれが一番悩ましいことです。

沖縄では辺野古基地反対意見が大多数を占めるのに、政府は繰り返し粛々と進めるといい、福島で原発が大きな事故を起こしたのに各地の原発を次々に再稼働しようとしています。国民の声などすべて無視。ダムも同じ構造になっています。

悔しいけどダムを止める方法は政治しかないと思います。いらないダムは中止するという政権に政治を行ってもらえないのです。かつて民主党が政権を取ったとき「コンクリートから人へ」というスローガンに喚起しました。

参議院選挙が近々ありますが、安倍政権が続く限り、今の悩みから抜け出せません。諦めずに頑張り続ける以外に方法はありませんが、私に今できることは中止になるまで反対と叫び続けるしかないと思っています。



立木トラスト木札撤去作業協力をお願い

あるトラスト山の木札を撤去しなければなりません。
そのトラスト山の木札は 33 本の木に 65 枚、130 人分です。
ついでに他のトラスト山もチェックしようと思います。



作業日時は 7 月 3 日（日） 10:00 設楽町役場駐車場に集合



雨天中止で開始したいと思います。2~3 時間行う予定です。

昼食、飲み水は会が用意します。



「設楽ダム建設中止を求める会」では7月23日に総会を開きます。



当会は10年目を迎え、設楽ダムの建設予定地を取り巻く環境は大きく変化しています。いま私たちには現況を踏まえた新たな取り組みが求められています。

今回の総会は、自然に囲まれたモリトピア愛知（愛知県民の森：写真）で行います。新東名が開通したいま新城J Cには名古屋I Cから1時間かからずに来ることができるようになりました。J R飯田線でのんびり車窓から自然を楽しみながら来することもできます、（ただし列車の本数が少ないので気を付けてください。（豊橋発8：10—三河槇原9：36 着または豊橋発10：42—三河槇原12：11.着、と思いますが、J Rにお問い合わせください。）

また、宿泊できるように予約を入れてありますので、総会終了後会員同士の親睦がはかれればと考えております。ぜひご出席いただきご意見、お知恵を賜りたいと思います。詳細は10頁に。（O）

【設楽ダムの建設費2400億円に増額・・・設楽町議会に町長が報告】という報道がありました。

このことについて本村伸子共産党衆議院議員が国交省課長補佐に問合せをしてくださいました。以下は本村議員が聞き取りされたメモです。

◆問合せ先：国土交通省水管理・国土保全局治水課事業監理室

松原寛課長補佐、子川直樹事業第一係長（直通 03-5253-8456）

◆設楽ダムの事業費増額（2070億円 → 2400億円）について、

- ・労務費等の物価変動257億円
労務単価や資材費の高騰
- ・消費税増税で50億円
- ・ダム検証に伴う工期延伸による事務費等の増 31億円
事務費、環境調査（ネコギギ調査、猛禽類調査、水質調査、流況調査など）
31億円は、2009年～2014年の検証の5年分
- ・その他 ▲8億円



ダム検証の際に、工事の中身を精査して、いるもの、いないものをわけた。
付け替え道路についても設計が進んだ段階で工事の金額が安くできることなどがわかった。
職員の給与も見直した。

増額分 合計 330 億円

◆愛知県の負担増は、100億円弱になる。

全国で直轄ダムや補助ダムの計画があるが、増額を求めるのは設楽ダム計画だけ。

※全国あまたダム計画がある中で、同じように消費税は増税され、労務単価や資材費が高騰しているのに設楽ダムだけ増額しているのはおかしい。愛知県はこれを簡単にわかりましたと言ってはいけない。やはり、少なくとも慎重な検証が必要。（by 本村議員）

◆「総事業費3000億円」と私たちがいっているなかの、本体と付け替え道路の部分の2070億円は増額になるが、残りの分の水源地域対策の費用についての増額は聞いていない、とのこと。

●5月25日に、国土交通大臣から愛知県知事宛てに、「設楽ダム基本計画の変更について（照会）」がだされた。

第 10 回総会開催のご案内

設楽ダムの建設中止を求める会では第 10 回総会を以下の日程で開催します。

と き：2016、7 月 23 日（土） 午後 1：30～4：30

ところ：愛知県民の森（モリトピア愛知）会議室

〒441-1693 愛知県新城市門谷字鳳来寺 7-60 TEL 0536-32-1262 FAX 0536-32-1273

主な議題・ 2015 年の活動報告と会計報告

- ・ これからの運動方針、特に立木トラスト運動について
- ・ その他

※立木トラスト運動についてはこれまでの取り組みの大幅な変更をしなければならぬ状況にあります。みなさまとじっくり話し合いたいと思います。

■ 会場へのアクセス

- ・鉄道利用の場合 JR飯田線 豊橋発10:42 発—三河槇原12:11.着 徒歩15分
- ・車の場合 新東名高速 新城JCから約14キロ20分

■ 宿泊できます（午後 5:30～夕食会（懇親会）を開きます。）

モリトピア愛知の宿泊施設（1部屋3～4人）の部屋を予約してあります。
夏休みの夜を自然の中でじっくり語らいあうのもいいかも、です。

※ 夕食＋朝食付きで一人9,000円～10,000円くらいです。

宿泊をご希望の方は090－7698－3652（奥宮）または okumiya@xj.commufa.jp

FAX 0532－54－7305 へ7月13日までにお申し込みください。

※ 懇親会のみ参加される方も奥宮へご連絡ください。（食事代は 3,500 円です。飲物代別）

翌日24日は豊川流域自然学校がモリトピア愛知を
出発点に亀石の滝などを巡るハイキングと映画
「ダムネーションの鑑賞会」（無料）を開催します。
1泊して愛知の森の自然を楽しむというのはいかがでしょうか。



豊川流域自然学校ハイキング案内を同封しました。会場への詳しいアクセスも
そちらの案内に掲載してありますので参照してください。



設楽ダムの建設中止を求める会： <http://www.nodam.org/>

代表 市野和夫 ichinok7@mx3.tees.ne.jp

事務局 奥宮芳子 〒440-0069 豊橋市御園町 1-3 0532-54-7305 okumiya@xj.commufa.jp